

科目		動物臨床栄養学Ⅱ		
担当講師 津田 圭子 実務経験有 獣医師免許 大学卒業後国、県、民間等に約 20 年勤務し公衆衛生研究部門に従事				
開講年次		授業形態	選択/必修	授業時間
動物看護、動物管理学科 2 年次後期		講義	必修	30
授業目標 六大栄養素を理解する。犬猫の必要栄養素の違いを理解する。ペットフードの表記を理解する。ライフステージの違いを理解する。BCS 評価及びカロリー計算ができるようにする。				
授業概要 基礎栄養素および主に犬猫に必要な栄養素、ペットフードの基本的な知識と特別療法食の特性など個体に合った。適切な食事管理についての知識を身につける。またペットフードの市場について考察する。				
成績評価の方法 評価の基準は筆記試験による。また本科目受験には出席率が 3 分の 2 以上であることが必要。試験は 80～100 点が A 評価、70～79 が B 評価、60～69 までを C 評価とし、60 点未満は再試とする。再試においては 80 点以上を合格とし評価は C となる。				
教材 動物栄養学（インターズー）、動物看護の実践（ファームプレス）、電卓				
授業計画 毎週月曜日 2 限目 10:50～12:20				
回	テーマ	授業内容		
1	特別療法食と疾患別による栄養特性を理解する	消化器病：膵臓の疾患とその食事管理、大腸の吸収の仕組み、大腸の疾患とその食事管理		
2	〃	腎臓病：慢性腎臓病の食事の与え方		
3	〃	肝臓病：肝臓病の栄養管理、肝臓病とその食事管理		
4	〃	糖尿病：糖尿病の仕組みとその症状、糖尿病の食事管理		
5	〃	食物アレルギー：食物アレルギーの原因と症状、食物アレルギーの仕組み、食物アレルギーの食事管理		
6	〃	食物アレルギーの食事管理、その他の皮膚疾患		
7	〃	がん：がんの栄養管理、がんの食事の与え方		
8	〃	脳に加齢と認知障害、肥満		
9	〃	甲状腺機能亢進症：甲状腺機能亢進症の仕組みと症状、甲状腺機能亢進症の食事管理		
10	ペットフードの販売と市場について考察する	嗜好性		
11	〃	ペットフードの管理 ペットフードに関する規則		
12	医療面接の目的と、コミュニケーションの基本を理解する	医療面接の目的、コミュニケーションの基本、栄養指導面接の基本的な流れ		
13	復習	小テスト		
14	〃	小テスト		